

街なみ環境整備方針説明書

| 都道府県名         | 熊本県  | 市町村名   | 南小国町   | 区域名 | 黒川地区 |
|---------------|--|--|--|-----|------|
| 地区概況          | 地区の概況  | 阿蘇くじゅう国立公園に接する黒川地区は、筑後川の源流である田の原川が流れ、周辺を山々の自然に囲まれた閑静で緑豊かな居住環境と温泉地としての性格を有する地域である。湯治温泉場であり、江戸時代より諸大名の旅の宿として利用されていた歴史を持ち、今もその名残を残しながら、素朴な住民の温かさが感じられる田舎らしい雰囲気づくりに工夫している。これまでの住民によるまちづくりに加え、観光客の増加や観光開発に伴い、歩行者の安全性や快適性と良好な住環境の保全が望まれる地区である。 |  |     |      |
|               | 号路の現況  | 地区の南側を幅員 10m の国道 442 号が走り、町道 2 路線が連携して地区内に誘導している。しかし、2 路線とも幅員が非常に狭く、特に地区の中心を通る（通称）川端通りは、幅員が 2.5m しかなく、土日は一方通行の規制をするものの非常に混雑している、地区内のその他の道路も幅員 4m 以下と狭いため歩行者の安全性に問題がある。   |  |     |      |
|               | 公園等の現況   | 地区内に公園等は配置されておらず、住民のコミュニケーションの場としては共同浴場が利用されている。   |  |     |      |
|               | 地区住民のまちづくり活動の概要  | 自治会を中心に、八日会、商栄会、旅館組合等のいくつもの下部組織が活動を行っている。民家の土蔵修理の際の旅館組合による助成や、旅館の壁や屋根の色を黒、茶を基調とする色使いによる街なみの調和、また乱立していた看板を撤去し共同看板を設置、さらに敷地内に雑木を植栽するなど、地区全体で積極的に景観形成に努めてきている。  |  |     |      |
| 地区の整備に関する基本方針 | 整備の目標  | 雄大な自然に囲まれた黒川の豊かな暮らしともてなしに彩られたふるさとの風景の中で、田舎らしい個性を生かしながら、住民にとって快適な生活環境であるとともに、観光客にとっての癒しの場となる、ゆとりと落ち着きのある街なみ環境づくりを図る。  |  |     |      |
|               | 整備の時期  | 平成 14 年度 ~ 平成 23 年度（概ね 10 年間）  |  |     |      |
|               | 地区施設等  | 通路等  | 地区内町道 2 路線は、住民の生活に密着した道であり、観光客にとっても重要な道となっていることから、地区の中心軸として捉え、歩行者空間の整備を図る。またこれらの軸となる道路をつなぐ小道を散策路として整備することで、回遊性の高い歩行者ネットワークを形成し、歩きやすく快適な道空間づくりを目指す。 |     |      |
|               |  | 小公園等   | 地区の外縁部にあたる場所に、公園と駐車場を兼ねた憩いの場を整備し、観光客の地区内への車の乗り入れを抑制する。また回遊性のある歩行者ネットワークとともに、観光客と住民のコミュニケーションの場として小公園等を配置し、自然豊かな風景を楽しみながら憩える空間づくりを目指す。              |     |      |
|               |  | その他  | 地区中心部に住民や観光客の交流拠点となる多目的集会施設を整備し、人々のコミュニケーションや憩いの場として利用する。また、地区内の案内サインや照明灯などの景観要素についても、わかりやすく親しみやすい修景演出を図る。   |     |      |
|               | 住宅等  | 住宅   | 地区内には古い民家や土蔵等があり、黒川の個性が感じられる要素となっている。公共空間の整備と合わせて、これらの建物を保全修景するとともに、住民の積極的な景観づくりの取り組みにより黒川らしい田舎の風情が感じられる街なみ景観の形成を目指す。                              |     |      |
|               |  | 敷地   | 道路際の堀や垣の工夫や雑木などの植栽、さらに敷地内の緑化などにより、緑豊かな落ち着いた雰囲気づくりを目指す。また、看板や自動販売機などの修景により、黒川らしい雰囲気が感じられる沿道景観の形成を目指す。   |     |      |
| その他の事項（関連事業等） | 国道 442 号の黒川から瀬の本の区間については、バイパスの整備が進められており、瀬の本方面から黒川地区へのアクセス性が向上するため、観光客の増加が予想される。 |  |  |     |      |
| 事業のポイント       | 地区の特徴  | 田の原川を中心とする谷あい位置する本地区は、周辺を山々に囲まれた閑静で緑豊かな温泉街であり、地区住民によるこれまでのまちづくりの取り組みにより、四季の変化が感じられる、落ち着いた雰囲気の街となっている。  |  |     |      |
|               | 事業の背景（問題意識等）   | 人気の観光地として、近年観光客が著しく増加しており、地区内への自動車の流入により、歩行者の安全や快適性が問題となっている。また周辺の観光開発も進められており、今後これらの開発にともない黒川らしい景観が損なわれることが懸念されている。   |  |     |      |
|               | 事業の目的（政策意図等）   | 観光地としての黒川の特徴を維持するとともに、地区住民にとっても快適な生活環境とするために、地区全体の景観の目標像を明確にし、公共空間と民有空間が一体となった景観づくりに取り組むことにより、黒川らしさを保全・創出することを目的とする。   |  |     |      |
|               | 最重点事項（事業箇所。メニュー等）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客と住民の交流や活動の拠点となる多目的集会施設、小公園等の整備</li> <li>・道路の修景や通路の整備による、安全で快適な歩行者空間ネットワークの創出</li> <li>・街づくり協定に基づいた住民全体の取り組みによる黒川らしい街なみ景観の形成</li> </ul>  |  |     |      |